

## 第32回 AFACT 総会報告

2014年11月25日～11月28日

バンコク（タイ）

報告者：SIPS 事務局長 菅又 久直

### I. 会議日程：

- 11月24日（月） 東京発 ハノイ経由 バンコク着
- 11月25日（火） AFACT 運営委員会/AFACT 技術手法委員会（TMC）会議
- 11月26日（水） AFACT 技術手法委員会（TMC）会議
- 11月27日（木） AFACT 総会
- 11月28日（金） EDICOM
- 11月29日（土）～12月6日 バンコク→ホーチミン市→ハノイ  
\*SIPS 海外企業視察調査（ベトナム）・・・別途報告
- 12月7日（日） ハノイ発 東京着

### II. 会議参加の目的：

アジア各国で協力して、効率的で相互運用性のあるグローバルサプライチェーンのための情報基盤を構築することを目指して、アジア各国の代表と技術的・手続的課題を審議するためにAFACT会議（運営委員会、総会、技術・手法委員会およびEDICOM）に参加した。

- ◇ AFACT（アジア太平洋貿易手続簡易化と電子ビジネス促進センター）：国連 CEFACT が開発した貿易円滑化と電子ビジネスに関する国際標準等の普及を図るために、国連 CEFACT アジア地区ラポーターと連携して活動する非営利の団体で、現在アジアの19カ国・経済圏が参加している。

なお、今回の会議は、タイ政府の外郭団体 ETDA（Electronic Transaction Development Agency）が会議を運営した。

### III. AFACT 会議総括：

AFACT は、1年毎に異なるメンバー国が議長国となり、運営委員会と総会の2回のイベントを主催する。2014年はタイが議長国（2010年：日本、2011年：台湾、2012年：イラン、2013年：ベトナム）で、5月のチェンマイにおける運営委員会と今回バンコクでの総会が開催された。

今回の会議には、日本（小生を含め、4名）、韓国、台湾、タイ、イラン、インドの6カ国、約30名が参加した。

小生（SIPS 事務局長：菅又久直）は、技術手法委員会（TMC）の委員長の立場で、運営委員会（StC）、TMC/CSC 合同会議、総会、および EDICOM に参加した。

なお、EDICOM については全てがタイ後による発表であり、開会後の AFACT 代表（日本、タイ、インド、イラン、台湾）によるパネル形式での AFACT 活動報告だけに出席した。

#### **IV. AFACT 技術手法 (TMC) 委員会&コミュニティ支援委員会合同会議：**

TMC/CSC 合同会議には、4 カ国（台湾、日本、韓国、タイ）から 8 名が参加し、国連 CEFACT 技術動向、アジア地域 CCL（Core Component Library）利用促進、クラウド・コンピューティング相互運用性、モバイル電子文書、および支払通知メッセージの拡張と食の安全のための国際トレーサビリティにつき審議を行った。

##### **(1) 国連 CEFACT 技術動向**

本年 10 月の国連 CEFACT フォーラム（ニューデリー）にて議論になった技術テーマにつき、小生が説明を行った。カバーしたテーマは次の通り。

##### **① 国連 CEFACT 標準のコンフォーマンスの定義およびその利用についてのガイド (Information Note) 策定プロジェクト。**

- コンフォーマンスの対象（技術仕様、ライブラリおよび標準（BRS や XML メッセージなど））の検討。
- コンフォーマンス・ユーザー（国連 CEFACT 自身、他の標準化組織、IT ベンダー、エンド・ユーザー）の期待の設定。
- TOGAF（The Open Group Architecture Framework）に基づくコンフォーマンス・タイプの定義（Consistent、Compliant、Conformance 等）。
- グループからの勧告。
  - ・国連 CEFACT は、正確で一貫性のある良く知られた用語を使用すべきである。
  - ・本プロジェクトチームは、TOGAF の定義を推奨する。
  - ・国連 CEFACT は、全ての標準と技術仕様に明確な Conformance Clause を記載すべきである（例えば、BRS/RSM にも XML/NDR 同様の記載を）。
  - ・正確な Conformance Clause は、ユーザーが標準実装における Conformance を宣言するための前提条件である。
  - ・国連 CEFACT は、ユーザー・コミュニティ（実装ユーザーおよび SDO）の Conformance 宣言の使用を勇気づけ推進すべきである。
  - ・これは、標準がどのように実装され使用されているかを議論するた

めのツールとなる。

- ・国連 CEFACT は、できれば他の組織と協力して、SDO や実装ユーザーの Conformance 自己宣言を可視化する Conformance レジストリを構築すべきである。
- ・ Conformance の可視化は相互運用性を促進するものと信ずる。

本ドラフトの内容は本年末までに完了し、Bureau に提出される。提起された勧告については、2015 年-2016 年の POW (Programme Of Work) に含まれることが期待される。

- ② 国連 CEFACT の各種辞書 (EDIFACT ディレクトリ、CCL、Code リスト、XML メッセージ・スキーマなど) の開発・保守のやり方につき、現状の手続きの恣意的部分の改善、およびあるべき姿の提案を行うプロジェクト。

本プロジェクトでは、あるべき Library のあり方を探るため、ドメイン代表者 (プロジェクト・リーダ、地域レポートを含む) に次ぎの内容の質問状を送付することとした。

➤ コア構成要素 (CC) について

- ・国連 CEFACT はコア構成要素の標準化を行うべきか？
- ・国連 CEFACT は全てのコア構成要素をハーモナイズして単一ライブラリ化すべきか？
- ・国連 CEFACT はコアセットのコア構成要素をハーモナイズし、複数からなるドメインコア構成要素を許容すべきか？

→(if yes) : 国連 CEFACT はドメインコア構成要素を、品質管理を含めて所管すべきか？

→(if yes) :

- ・品質管理を含む保守管理はライブラリ管理チームが行うべきか？
- ・品質管理を含む保守管理は、国連 CEFACT の PDA またはドメインが行うべきか？

→(if yes) : 国連 CEFACT は協働合意書に基づき、他の組織にドメインコア構成要素の管理を許すか？

→(if yes) : 国連 CEFACT は、他組織が管理するドメインコア構成要素へのポインターを許すか？

→(if yes) : ドメインコア構成要素パッケージには新コア構成要素だけ含むのか？

→(if yes) : ドメインコア構成要素パッケージには新コア構成要素およびコアセットの拡張を含むのか？

- ・コア構成要素の追加・修正要求は何か月以内に処理完了すべきか？

- ・自分のドメインに限らず、1年の内何日ならコア構成要素の品質管理のために時間を費やせるか？
- ・上記に加え、1年の内何日なら自分のドメインのコア構成要素の品質管理のために時間を費やせるか？

➤ ビジネス情報項目（BIE）について

- ・国連 CEFACT はビジネス情報項目ライブラリを提供すべきか？
- ・国連 CEFACT のビジネス情報項目ライブラリには、国連 CEFACT が品質管理を含む保守管理するビジネス情報項目を含めるべきか？

→(if yes) : 品質管理を含む保守管理はライブラリ管理チームが行うべきか？

→(if yes) : 異なるドメインのビジネス情報項目も、品質管理の一部としてハーモナイズするのか？

→(if yes) : 品質管理を含む保守管理は、国連 CEFACT のドメイン固有ライブラリを所管する PDA またはドメインが行うのか？

- ・国連 CEFACT ビジネス情報項目ライブラリは、協働合意書に基づき、他組織が管理するビジネス情報項目も含めるべきか？
- ・国連 CEFACT ビジネス情報項目ライブラリは、他組織が管理するビジネス情報項目にポイントすることを許すか？
- ・国連 CEFACT ビジネス情報項目ライブラリに、ビジネス文書構成を含むか？
- ・国連 CEFACT ビジネス情報項目ライブラリは、ビジネス文書構成、プロジェクトや Submission がどのビジネス情報項目を使っているかの情報を提供するか？
- ・国連 CEFACT ビジネス情報項目ライブラリは、ビジネス情報項目がどのビジネス文書構成、プロジェクトや Submission で使われているかの情報を提供するか？
- ・自分のドメインに限らず、1年の内何日ならビジネス情報項目の品質管理のために時間を費やせるか？
- ・上記に加え、1年の内何日なら自分のドメインのビジネス情報項目の品質管理のために時間を費やせるか？

➤ EDIFACT/XML メッセージについて

- ・国連 CEFACT は、CEFACT ライブラリに含む新 EDIFACT メッセージの策定、および既存メッセージの保守を行うか？
- ・国連 CEFACT ライブラリに、他の組織が開発したメッセージ導入ガイドを含めるか？
- ・国連 CEFACT ライブラリに、他の組織が開発したメッセージ導入ガイドへのポインターを許可するか？
- ・国連 CEFACT は XML メッセージ定義（XSD）ライブラリを提供するのか？
- ・国連 CEFACT は独自の XML メッセージ定義（XSD）を、ライブラリの一部として

策定するか？

→(if yes) : 国連 CEFACT は全てのビジネス文書構成、プロジェクト、Submission の XSD を定義するのか？

→(if yes) : 国連 CEFACT は選択したビジネス文書構成、プロジェクト、Submission の XSD を定義するのか？

→(if yes) : 国連 CEFACT の XSD は列挙型コードリストを含むか（この場合、コードリスト変更は XSD 再定義が必要）？

- 国連 CEFACT ライブラリは、協働合意書に基づき、他組織が管理する XML メッセージ (XSD) も含めるべきか？
  - 国連 CEFACT ライブラリは、協働合意書に基づき、他組織が管理する XML メッセージ (XSD) へのポインターを許すか？
  - 国連 CEFACT ライブラリは、どのビジネス文書構成、プロジェクト、Submission が、どの XSD に Consistent/Compliant/Conformant しているかの情報を提供すべきか？
  - 国連 CEFACT ライブラリは、どの XSD が、どのビジネス文書構成、プロジェクト、Submission に Consistent/Compliant/Conformant しているかの情報を提供すべきか？
  - 国連 CEFACT ライブラリは、XML メッセージ (XSD) を年 2 回発行すべきか？
  - 国連 CEFACT ライブラリの XML メッセージ (XSD) は要求に応じて発行すべきか？
  - XML メッセージ (XSD) の品質管理に年間何日費やせるか？
- ▶ ライブラリの公開について
- ライブラリは次のどのフォーマットでアクセスされるべきか？

Excel

Hyperlinked Documents

XML (e.g. XML4CCTS)

UML (e.g. XMI)

RDF

Other (please specify)

- 国連 CEFACT コードリストは Web Service でアクセスできるべきである？
- コードリストは、例え期限切れでも、全てのコード値を発行すべきである？
- 次の追加情報も国連 CEFACT ライブラリ経由でアクセスできるべきである？

Web Service とその Configuration

Web Service や通信チャネルのセットアップガイド

セットアップ、テスト、導入のためのベストプラクティス、技術指図、構成仕様

導入参照事例

バックグラウンド資料

Schematron（または他のルール言語）

事例

ビジネス価値、技術困難性などのガイド

定義や説明ノート

- ・国連 CEFACT はデータ型ライブラリを継続発行すべきか？
- ・国連 CEFACT はセマンティック・データ型（例 Amount）を継続発行すべきか、あるいはプライマリ・シンタックス型（例 W3C data types）に限定すべきか？
- ・国連 CEFACT は BRS を発行すべきか？
- ・BRS/RSM はライブラリ改訂ごとに更新すべきか？
- ・国連 CEFACT の発行は定期的であるべきか？

## （2）アジア地域 CCL（Core Component Library）利用促進

① CCL 利用促進の一環として実施した、バンコクにおける自動車部品メーカー間の EDI 実証実験につき紹介した。

・電子化におけるプロセス改善による手書き署名の削減と、国連 CEFACT CCL ベースの EDI の仕組みを紹介。結果は、好評（1 時間のプロセスが 10 分に短縮）であった。

・次のステップとして、I-Form による Tax Invoice の導入を検討している。

・タイ側（ETDA）に行政側のオンライン納税の進捗を聞いたところ、次の回答があった。

→現状、固有 Web ベースの納税システムを提供している。モバイルでも利用可能である。経費は 1 トランザクションあたり 500 バーツ（約 ¥2,000）で、高い。

→ISO2022 ベースで I-Form を使った Tax Invoice は実証を行ったものの導入には至っていない。理由は、電子文書関連の法整備の遅れにある。

→タイでは NEDC（National Digital Economy Committee）を立ち上げ、法整備も含む新たな Digital Economy 戦略を推進しようとしている。その中で、15 法令におよぶ電子文書関連の改正も期待されている（18 か月必要）。

② 小生より、SIPS が進める業界横断データ辞書およびメッセージ辞書についての登録簿モデル（Registry Data Model）と登録手続について紹介した。

・次の分野における領域メッセージの開発が進んでいる。

－中小製造業および卸一般

－地方自治体一般消耗品購買

－航空機製造業界

－中小自動車部品製造業界（現品票対応）

- －水業界における建設・保守
- －金流商流情報連携のための支払通知
- ・メッセージ辞書登録データモデル、登録手続き、および領域のコード化について SIPS の状況を紹介。
- ・国連 CEFACT へ提案準備中の CCL 追加要求を紹介。

### (3) クラウドコンピューティング WG

前回の AFACT 中間会議にて設立されたクラウドコンピューティング WG につき、台湾の Zonyin Shae 氏より次の説明が行われた。

- ・クラウドコンピューティングの紹介
- ・クラウドコンピューティング WG の目的
  - －クラウド上の、仮想マーケットプレイスの相互運用性を実現する、様式と方式の標準を確立する。
  - －特定のベンダー製品によらない、標準環境におけるアプリケーションとサービスを展開する。
  - －クラウド・アプリケーションのための「アプリケーション・ストア」を可能にする。
- ・クラウドコンピューティング WG の作業項目
  - －クラウドへ移行するアプリケーションを検討する。
  - －アプリケーションのための OVF (Open Virtualization Format) を定義する。
  - －特定のクラウド基盤にアプリケーションを実装する。
  - －クラウド上で、アプリケーションの統合化とエコシステム (\*) のための標準を定義する。
  - －定義した OVF を普及促進する。

(\*)「生態系」を意味し、近年、ビジネスにおいては特定の業界全体の収益構造を意味する。ある業界にかかわる複数の企業が協調して業界全体で収益構造を維持し、発展させていこうという考え方によるもの。

クラウドでは、互いに収益を向上させるサービスの共存関係を、広義に「エコシステム」と呼ぶ場合が多く、自然発生的に登場している。例えば、Amazon Web Service の周辺では、Oracle や Red Hat などサードパーティベンダが公式サポートを表明するほか、ベンチャー企業が周辺ツール開発をハイピッチで作るなど、ビッグプレイヤーを取り巻く形でエコシステムが急速に立ち上がりつつある。

- ・検討候補アプリケーション
  - －TEDA タイムスタンプ・サーバー (タイ)

- －スマート・ツアリズム（台湾）
- －旅館情報（TT&L、日本）

（４）ロジスティックスのための信頼性モバイル電子文書フレームワーク

韓国の Youngkon Lee 氏より、現在 ISO TC154 へ提案中の **Trusted Mobile e-Document Framework for Logistics** の紹介が行われた。

現在 ISO TC154 にて新作業項目にする手続き中とのことである。

（５）その他

- ・日本で開発中の拡張支払通知メッセージの紹介

- －日本より国連 CEFACCT サプライチェーン PDA に新プロジェクトとして紹介している。

- －拡張支払通知メッセージの目的は次のとおり。

- ・取引先の消込業務の改善。
- ・商取引情報の金融セクターとの共有。
- ・日本／アジアを含む世界の取引慣行への適応。

- －国連 CEFACCT へのプロジェクト提案に際して、AFACT 各国の承認サポートを依頼した。

- ・食の安全のための越境トレーサビリティ

Eva Yueh 氏（台湾）より、台湾では海外からの食品の安全について注目が集まっており、電子インボイス交換による越境トレーサビリティの実証実験につき提案があった。

これにつき、Wanawit Ahkuputra 氏（タイ）は、台湾：タイ間の実証実験の可能性調査を始めることに合意した。

（６）活動計画

- ① CSC（Community Support Committee）は標準様式による概説を付けて、各国のローカル CCL を AFACT より発行する準備を行う。
- ② AFACT の成果物（ガイドラインなど）を AFACT WEB 上で見つけられやすくするよう、AFACT 事務局に要請する。
- ③ TMC（Technology and Methodology Committee）議長は、次回の AFACT 中間会議までに、CIDL（Cross Industry Data Library）のデモ・キットを準備する。
- ④ クラウドコンピューティング WG の活動計画は次のとおり。
  - ・タイムスタンプ検証の仕組みとソリューションにつき調査する。
  - ・次回の AFACT 中間会議までに、タイムスタンプ・サーバー用のオブジェクト・コードの装備を試みる。

- ・ 次回の AFACT 中間会議までに、海外旅行における要件定義を試みる。
  - ・ シナリオを実現するための API セットを定義する。
  - ・ 次回の AFACT 中間会議までに、SLH (Small Lodging House) のための API セットを定義する。
- ⑤ 国連 CEFACT 拡張支払通知メッセージ・プロジェクト提案を支援するよう、AFACT 各国に呼びかける。
- ・ 2015 年 1 月末までにプロジェクト提案書を準備する。
  - ・ 2015 年 2 月中に、AFACT メンバーにプロジェクト支援要請を送付する。
  - ・ 2015 年 3 月中に、国連 CEFACT ビューローにプロジェクト提案を送付する。
- ⑥ 越境トレーサビリティに基づく食の安全パイロット・プロジェクトの可能性を調査する。
- ・ 次回の AFACT 中間会議までに、台湾とタイによるパイロット・プロジェクト・チームを結成する。
  - ・ タイは電子インボイスのデータ定義を準備し、台湾に送る。
  - ・ 次回の AFACT 中間会議に、パイロット・プロジェクトの第 1 回会議を行う。